

特集の扉

12号特集「科学技術とイノベーションを確実に実行するプログラムマネジメント」

2021年度編集委員会

委員長 亀山秀雄、副委員長 佐藤達男

編集委員 中村 明、中山政行

西田絢子、中川 唯

企画趣旨

P2Mは、オーナー（発注者）の視点に立って日本の信頼と共創の精神文化を基本に、価値発見とイノベーションに潜在知識を結集して新事業を産み出す日本発のマネジメント手法です。

本学会設立の趣旨の冒頭にも「現代世界は複雑問題に遭遇し、人類の将来に不確実性や不協和を増加させている。われわれはこの問題解決のために専門領域を超え英知を結集し、全体最適、全体調和を目指して社会ニーズに応えねばならない。」と書かれています。

昨年10月に我が国は2050年にカーボンニュートラル社会を目指すとの宣言がなされました。さらに本年4月から第6期科学技術・イノベーション基本計画がスタートしました。5年ごとに見直されるこの基本計画は、2050年までに6回のサイクルを繰り返す、そのアウトカムがカーボンニュートラル社会の実装という事になります。

30年間の間にカーボンニュートラル社会構築のために必要とされる課題を発見し、その課題に輻輳して存在する多くの問題を取り上げて、それを解決するためのプロジェクトを動かして行く必要があります。そのための方法論としてP2Mの必要性が高まっていると思われまます。

本特集では科学技術とイノベーションにより社会変革を確実に実行するためにプログラムマネジメントに何を期待し、どのように適用し、どのようにP2M理論の適用と進化を図っていくかについて国、企業、大学のそれぞれの立場で解説して頂くことにしました。

掲載内容

執筆依頼先は、国、競争的資金提供組織（FA）、企業、大学の関係者に執筆をお願いしました。その結果、経済産業省、環境省、NEDO、JST、ERCA、協議会からそれぞれの立場での国の政策に関する取り組みを紹介して頂きました。職種の異なる企業から5件、科学技術を生み出す大学から9件の寄稿を頂きました。その結果、147ページに渡る特集を組むことが出来ました。

本特集によりプログラムマネジメントが社会のいろいろな分野でどのように使われていくかを知ることが出来ると思います。

緊急事態宣言が繰り返し発せられる不安定な社会状況の中、執筆頂いた方々に心から御礼を申し上げますと共に、第6期科学技術・イノベーション基本計画が関係各所で確実に成果を上げることを期待したいと思います。

(2021年6月20日)